

合同

No. 465

「人となられた神」

板橋教会牧師

大井 満



「初めからあったもの、わたしたちが聞いたもの、目で見えたもの、よく見て、手で触れたものを伝えま
す。すなわち、命の言について。一この命は現れま
した。御父と共にあったが、わたしたちに現れたこ
の永遠の命を、わたしたちは見て、あなたがたに証
しし、伝えるのです。一」。

(ヨハネの手紙一 1章 1～2節)

12月24日が土曜日、25日が日曜日となるの
は6年ぶり。次にそうなるのは11年後の2033
年だとテレビで言っていました。テレビの関心はも
ちろん「クリスマスに旅行に行ける」とか、「嬉しい」
ということでした。けれどもわたしたちキリスト者
にとっては、クリスマスイブが土曜日、そして何よ
りもクリスマスが日曜日と重なることにどんな意味
があるのでしょうか。

冒頭にあげたみ言葉は、神の言葉であるイエス・キ
リストが、わたしたちの世界に来てくださったと
言っています。「初めからあったもの」とは、天地万
物の創造に先立って存在しておられた神の御子を表
しています。コロサイの信徒への手紙1章15節で
は、このことを次のように言っています。「御子は、
見えない神の姿であり、すべてのものが造られる前
に生まれた方です」。

この方がわたしたちの前に現れたのです。しかも、
直に聞き、この目で見、よく見て、手で触れるよう
にして、来てくださったと、主イエスの弟子たちは
証言します。

この秋、天に召された板橋教会のO兄の愛誦聖句
のひとつは、次のみ言葉でした。「そのとき、柴の間
に燃え上がっている炎の中に主の御使いが現れた。
彼が見ると、見よ、柴は火に燃えているのに、柴は
燃え尽きない。モーセは言った、『道をそれて、この
不思議な光景を見届けよう。どうしてあの柴は燃え

尽きないのだろう』(出エジプト記3章2～3節)。

モーセの探究心が彼を主の使いに出会わせ、神が
彼に声をかけ、出エジプトを導く指導者になるよう
にとの召命をお与えになりました。神は彼の探究心
を用いられたのです。

イエス・キリストの御降誕から二千年以上が経過
し、わたしたちは弟子たちのようにイエス・キリス
トのお言葉を直接聞いたり、見たり、触れたりするこ
とはできません。けれどもわたしたちは、聖書を通
して主イエスの言葉を聞き、お姿を見、直接触れる
かのようにして、体験することができます。

ヨハネは1節で「目で見えたもの」と書いた後に、
「よく見て」とつけ加えました。じっと見るとか、
観察するとかいう意味の言葉です。まさにモーセが
「道をそれて、この不思議な光景を見届けよう」と
言ったように、弟子たちもイエスという方について、
「道をそれて」見届けたのです。

先日3年振りに尾瀬にハイキングに行きました。
木道が敷かれた尾瀬ヶ原を、高原の空気と景色を楽
しみながら歩きました。見所に来るとまっすぐ進む
道とは別に迂回路が設置されています。元気な間は、
美しい光景を求めて迂回路に入っていくのですが、
疲れてくると脇目も振らずにゴールめざして歩いて
しまいます。

弟子たちは人生の道をそれてイエスに会い、イエ
スという方と約3年間生活を共にし、言葉を聞き、
不思議なわざを見、食事も共にしました。エマオ途
上の弟子たちが、イエスがパンを裂かれる様子を見
て、「イエスだと分かった」(ルカによる福音書24
章31節)のは、彼らがイエスと食事を共にしてい
たからです。

神はわたしたちを救うために御子をお送りくださ
いました。これもまた「道をそれる」ことでしょう。
普通の方法では人間を救うことができないので、神
は普通ではない方法を取られたのです。

ですからわたしたちも、わたしたちのところに來
てくださったイエス・キリストを、道をそれてでも探
求し、求めていきたいと思ひます。み言葉を聞き、
主イエスをじっくり見て、手で触れるかのようにし
て求めるクリスマスでありますように。

※今号からメッセージの執筆者の顔写真を入れることに
しました。